

平成29年度第2回秦野市行財政調査会（行財政経営専門部会）

1 開催日時	平成29年7月28日（金）午後1時55分から4時50分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎3階 3A会議室	
3 出席者	委 員	斎藤部会長、茅野部会長職務代理者、坂野部会長職務代理者、足立委員、横溝委員
	関係課等職員	企画課長、同課長代理、同課担当1名 財政課長
	事務局	政策部長、行政経営課長、同課長代理、同課担当3名
4 議題	(1) 本年度の進め方について 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）に係る平成28年度評価について (2) その他	
5 配付資料	資料1 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）平成28年度（2016年度）評価報告書（案） 資料2 総合計画における重要業績指標（KPI）の達成状況一覧 資料3 総合戦略における市自己評価結果一覧	

6 会議概要

(1) 開会

【事務局】 一当日資料の確認一

【政策部長】 一挨拶一

【部会長】 本日は、「秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価を行いますが、これは総合計画後期基本計画のリーディングプロジェクトを兼ねておりますので、御承知おきください。

それでは、本日の次第に従い、進めていきたいと思います。議事（1）の資料の説明をお願いいたします。

【企画課】 一資料1に基づき全体の概要説明一

【部会長】 外部評価の全般的な説明をいただきましたが、御質問等あればお願いいいたします。

【委員】 外部評価に当たっての文章の中で、総合戦略の基本目標そのものが、総合計画後期基本計画のリーディングプロジェクトと同格であるとありますが、目標とプロジェクトが同格であるという表現は分かりづらいと思います。

【企画課】 見直しを考えます。

【委員】 ここでは、外部評価ということで、P D C Aのチェックを考えて、アクションの部分は含まないと考えてよろしいですか。

【企画課】 そのとおりです。

【委員】 今の形式では、基本目標ごとに外部評価をすることになっています。外部評価で何らかのコメントがほしいのであれば、外部評価の前に内部評価としてコメントを入れて、それに対して外部評価を対峙させる形式の方が分かりやすいと感じます。具体的には、42ページの地方創生関連交付金の様式で示されているように、順番でいえば、K P I があって、内部評価があつて、最後に外部評価という構成が分かりやすいと思います。

【企画課】 次回までにできる限り反映させたいと思います。

【委員】 例えば、13ページに今後の課題等という欄があつて、アクションの部分が含まれているように思いますが、その部分について、コメントしてもよろしいですね。

【企画課】 そのとおりです。

【部会長】 それでは、中身に入っていきます。11ページの基本目標1の説明をお願いいたします。

【企画課】 一基本目標1について説明一

【部会長】 御質問等はいかがでしょうか。

【委員】 13ページの今後の課題等の考え方についてですが、課題とはチェックの総括が書いてあって、そしてアクションを起こすということですね。この一覧表では、アクションとなる今後の対応が書かれていないので、市民に分かりにくいと思います。

【部会長】 自己評価は担当課が記載しているのですか。

【企画課】 そうです。

【部会長】 今後の課題の受け止め方が部署によって違うようです。数値目標の達成状況があつて、そこから自己評価を行ったというような理由が記載されていないと、分かりづらいと思います。課題と今後の対応を分けて記載した方が、統一されて分かりやすいのではないでしょうか。

【委員】 邪魔って、事業内容になぜその懸念内容が記載されていないのかという話になりますね。基本目標1の豊かな自然・良好な住環境づくりは、他市にはない優位性だと思います。これを是非とも推進して、Bという評価ではなく、堂々とAという評価にしてほしいと思います。環境維持という面では、農業経営者、林業経営者が平均70歳を越えている実情を考えれば、事業の持続性をどのように考えるのかが、一番のポイントだと思います。

【部会長】 15ページのN o. 10のD評価は、国の補助金が付かなかったからですか。

【企画課】 はい。国庫対象事業が遅れているということです。

【部会長】 同一事業が2箇所に出てくるならば、一覧表の中も空欄ではなく、同じように記載した方が良いと思います。No.19の区画整理事業は、数値目標が達成しているにもかかわらず、なぜC評価なのですか。

【企画課】 区画整理事業そのものは、順調であるようですが、C地区での道路や公園等の整備の部分が、まだ検討段階なためC評価にしたとのことです。

【委員】 5ページの自己評価の区分について、目標に到達していれば、「順調に進んでいる」と評価する場合、平成32年度目標に対してのものですか。

【企画課】 最終目標は平成32年度ですが、年度ごとに数値設定をしています。

【委員】 そうすると、数値目標の達成状況と自己評価の部分が一致していないので、腑に落ちません。No.1の事業で、数値目標の達成が130%にもかかわらずB評価では、一体何%の達成率でA評価になるのかという疑問が残ります。

【企画課】 ここでの自己評価とは、平成28年度実績の数値目標等の成果になるわけですが、数値目標の達成評価と数字以外の部分の最終的な自己評価がどのように結びつくのかの尺度がはっきりしていない部分があって、担当課の判断で自己評価の結果が分かれてしまったのが現状です。次回に向けては、数値の評価をストレートに持ってくるとか、それ以外の部分を取り入れるならば、どのような視点で取り入れるのかを整理するのが課題であると認識しています。

【部会長】 単純に評価した方が分かりやすいと思います。自己評価の仕方を統一する必要があります。成果と課題を基に、今後の対応をまとめような認識が大事です。

【委員】 今後の課題等の欄は、総合計画の計画期間の後の課題を述べているような気がします。それを念頭に、自己評価を行っているような印象を受けます。結果として、数値目標が達成しているにもかかわらず、自己評価がBという事象が出てくるのでしょうか。

【企画課】 例えば、目標が100%達成していればAで、75%以上でB、50%以上でC、50%未満でDというのが妥当でしょうか。

【委員】 例えば、5年計画でこのまま進行すれば目標を達成できる「A」、ほぼ大丈夫「B」、ちょっと問題抱えている「C」、ほとんど無理「D」というのが、計画の中間評価という視点では分かりやすいと思います。

【委員】 5ページの自己評価の区分で見れば、年度ごとの目標が設定されていて、達成していれば「A」で、方向に向かっているけど目標を達成していない場合は「B」などで、この基準で機械的に評価する方法もあると思いま

す。

【企画課】 それでは、自己評価の一覧については、目標の達成状況の欄の右側に機械的に評価した自己評価欄を持ってきて、一番右側に目標を達成していない場合には今後の対応などを記入するようなことを検討したいと思います。

【委員】 A評価、B評価については、今後の課題は空欄でも構わないと思います。計画が順調に進んでいれば、コメントは不要です。

【企画課】 次回の会議までに参考にさせていただきます。

【部会長】 それと、CないしD評価とされた取組みが進んでいない事業は、今後の課題や対応について再整理した方がよいと思います。

【委員】 今回の評価はKPIがあるので難しいと思います。過去には、事業費ベースで評価を行ったことがあります。事業費であれば、足すことができますが、KPIでは足すことはできません。KPIが何項目達成しているから、評価がAであるBであるといった根拠がありませんし、それぞれの事業の重みも違いますから、トータルでの評価は難しいと思います。先ほどの話に戻りますが、市が内部評価として出した評価に対して、我々がそれを妥当か否かの判断をする程度がよいと思います。

【部会長】 総合戦略の外部評価では、AとかBとかランク付けするのが義務ですか。

【企画課】 決まりはありませんが、神奈川県の例ではAからDまでの4段階で外部評価を受けていました。

【委員】 以前に事業費の執行率とKPIの達成状況がどの程度相関するかの研究を行ったことがあります。分野によって異なりますが、比較的相関しています。それと、KPIの指標は、市民目線で見たときには分かりづらいと思います。例えば、基本目標の1の「まちのコンパクト化と交通ネットワーク形成の推進」では、コンパクト化が進んだことを客観的に捉えるならば、人口集中度がどのくらいかなどを見たほうが分かりやすいと思います。先ほどの評価の話では、やはり、形式的に決算報告のように内容が適正であるかどうかといった話が分かりやすいと思います。

【部会長】 委員のお話のように、KPIの追加や見直しなどの視点も評価の一つだと思います。

【企画課】 KPIが一つの成果であると思っていますので、それがうまく表現できていなければ、当然KPIの見直しもあると思われます。

【部会長】 分かりました。その方向で議論を進めます。基本的には平成28年度の達成状況を参考に進めますが、時間の都合からもここでKPIの指標は決めることがないので、委員の方から特にコメントがある場合は、意

見をいただきながら進行していきます。

【委員】 11ページのKPIの「商連に加盟している店舗数」のところですが、現在、市場ではリアルな店舗の他に商連に加盟していないお店もありますので、無店舗とか流通のことも含めて、全体を把握することも大事だと思います。

【部会長】 それでは、次に基本目標2の説明をお願いいたします。

【企画課】 一基本目標2について説明一

【部会長】 御質問等があればお願いいたします。

【委員】 N.o.26の事業で指標がない理由はありますか。

【企画課】 担当課に差し戻して、目標値を設定するようにしたいと思います。

【委員】 秦野市一番の関心は、N.o.28の分娩の問題であると思いますが、順番がなぜ一番前ではないのですか。

【企画課】 施策の順番は、総合計画の施策の体系番号順になっています。

【委員】 N.o.24の事業は、参加者数を指標にしていますが、どういう根拠で目標設定をしているのですか。予算に関係しているのでしょうか。それとも、明確な方針があって、それを目標に設定しているのでしょうか。

【部会長】 確かに、教室に参加する人数でこれだけの事業の成果を把握できるかは疑問が残ります。全体的に、事業内容と数値目標が上手く対応していない部分があると思います。

【企画課】 基本的には、成果の指標を設定するように指示していますが、どの部署も成果を捉える指標の設定が難しい部分もあるので、担当課も苦労している部分はあります。

話は前後しますが、N.o.24の事業の自己評価結果を見ますと、先ほどの自己評価の仕方での話に則して、数値目標の達成評価を機械的に自己評価に当てはめるということに懸念があります。数値目標の達成評価は機械的に出して見ますが、それと自己評価が一致していないものは、その理由を書くということで調整したいと思います。

【委員】 確かにN.o.24の事業を見ると、この指標だけでは評価は難しいので、他に遅れているコメントなどが入れば、納得できる評価になると思います。

【委員】 事業によってアンケートなどは行っていないのですか。

【企画課】 満足度など客観的な指標につながるアンケートをとっている事業もあります。

【委員】 例えば、アンケート結果を指標に生かせば、説得力があると思います。

【部会長】 事業を行い、市民の声を聞き、それをまとめておくことは、非常に大事ですよね。効果があるのか、遅れているのか、ニーズなどがわかりま

す。

【委員】 総合計画の中では、このような数値目標は記載されているのですか。

【企画課】 基本的には、全てのシートに数値目標を設定するようにしております、
その中でも代表的なものを総合計画の冊子に記載しています。

【委員】 そうすると、5年間の財政フレームを決めていて、その枠に応じて、
各課が目標を設定していると理解してよろしいですか。

【企画課】 そうです。

【委員】 総合計画の進行管理的な数値という意味であれば、各課が選んだ数
値目標で目的は達成できていると考えます。

【部会長】 KGⅠはここで評価する必要がありますか。

【企画課】 KGⅠは計画期間終了後の評価になるので、必要ありません。

【委員】 最終的にこの資料は、国や県へ折衝する際の資料として使われるの
ですか。

【企画課】 国等へは、どういう場で、どのように評価をしたのかを形式的に
報告します。この資料については、市のホームページ上で公表する予定です。

【部会長】 それでは、基本目標3の説明をお願いいたします。

【企画課】 一基本目標3について説明一

【部会長】 御意見等はいかがでしょうか。

【委員】 №.44の事業で交付金がなかったら、完全にお手上げではなく、ソ
フト面でのカバーや市の独自予算での優劣をつけるなどの対応を考える必要
があると思います。

【委員】 №.51については、成年後見人制度のことなので、数値目標として、
利用者数などの設定はどうでしょうか。

【企画課】 計画策定期階では数値が取れなかったかもしれません、現状で
は可能だと思いますので、担当課に確認したいと思います。

【委員】 №.47の事業についても、火災報知機の設置数や講習会の来場者数
などでも構わないと思います。

【部会長】 №.52の事業も介護予防・日常生活支援総合事業の推進がメイン
の事業であると思いますが、指標は要介護等認定率になっているため、違う
指標を置くのが適当ではないかと思います。そういう点も議論してほしい
と思います。指標も当初作ったものを踏襲するのではなく、変わっていく必要
があると思います。

【企画課】 確かに指標が適当でないものもあるので、この会で御意見いただ
いた事項は、翌年度に向けて見直す方向で進めたいと思います。

【部会長】 それでは、基本目標4の説明をお願いします。

【企画課】 一基本目標4について説明一

【部会長】 何か御質問等はありますか。

【委員】 N o. 65 の地産地消では、じばさんずが挙げられていますが、JAとの情報を密にしたうえで、成果を出す方がよいと思います。

【部会長】 市が中心に行う指標もあると思いますが、本来はJA等が行う指標の取り方もあると思うので、そういう点も考えた方がよいですね。

【企画課】 外部も含めて、成果がしっかりと分かる指標の取り方について、目線を広げて工夫したいと思います。

【部会長】 N o. 68 や 69、70 などは指標設定が難しいですか。

【企画課】 シティプロモーションは指標設定ができると思います。ホームページのアクセス数などを把握していますので、設定しやすい指標であると思います。

【委員】 N o. 69 の上智大学の事業内容はどのような意味ですか。

【企画課】 大学が国から補助金などを受けていることに関連して、市と大学が協働して取り組んだ事業があるため、市が大学の事業を評価しているものです。

【委員】 N o. 62 の事業でインターンの受入数の指標は取れませんか。

【企画課】 把握することは可能です。

【委員】 中小企業は企業ブランドがないので、インターンの受け入れを通して、実際に就職する人が出ています。そういう指標を参考にするのもよいでしょうね。

【部会長】 それでは、次の地方創生関連交付金の概要説明をお願いいたします。

【企画課】 一地方創生関連交付金について全体説明—

【部会長】 何か御意見はありますか。

【委員】 今回は国絡みで、総合戦略の評価を行うよう、また、交付金は効果検証するようにという別枠での話ですから、報告書としては、別冊にした方が分かりやすいと思います。

【企画課】 次回の会議までに整理いたします。

【委員】 この42ページの様式は、秦野市独自の様式ですね。良いと思いますが、外部評価は2択しかないので、コメントの仕方が難しいと思います。

【企画課】 事業について、特にお気付きの点があればコメントをいただきたいと思います。

【部会長】 それでは、交付金の中身に入りたいと思います。対象事業1-1の説明をお願いいたします。

【企画課】 一地方創生加速化交付金・対象事業【1-1】を説明—

【部会長】 何か御意見等はありますか。

【委員】 KPIの「小田急線市内4駅における一日の平均の乗降客数」の設定趣旨はどのようなことですか。

【企画課】 秦野市の魅力が里地里山であるということで、それを高めることにより、秦野を訪れる方が増えるという視点です。

【委員】 森林ツーリズムの参加者数ですが、前年度はどの程度参加しているのですか。

【企画課】 実質的には平成28年度からの新規事業となります、担当課に確認したいと思います。

【委員】 KPI指標の立て方は非常に難しいと思います。自分たちの行動を制限する場合もありますし、国もこの指標で効果を把握するわけですから、熟慮して設定しなければなりません。森林ツーリズムの延べ2,000人は何を根拠に立てたのでしょうか。

【委員】 36団体あるので、1回当たり20名、年3回を実施すれば、延べ2,000人は非現実的な数字ではないのではないかと思います。

【部会長】 では、1-2の交付金事業の説明をお願いいたします。

【企画課】 一地方創生加速化交付金・対象事業【1-2】を説明—

【部会長】 何か御意見等はありますか。

【委員】 1-1の事業と1-2の事業は一本の交付金ですから、評価はひとつにまとめた方が良いと思います。

【部会長】 それでは、1-1と1-2の事業を一体で評価することにします。

特に御意見がなければ、有効であったということで整理いたします。

では、次の地方創生加速化交付金・対象事業【2】の説明をお願いします。

【企画課】 一地方創生加速化交付金・対象事業【2】の説明—

【部会長】 何か御意見等はありますか。

【委員】 最終的には伊勢原市が国へ報告するのですか。

【企画課】 申請は各市が行っており、報告についてもそれぞれの自治体が行います。

【委員】 KPIが達成できているので、自己評価はAでも良いと思います。

【部会長】 アプリのアクセス数などを分析して、費用対効果を検証することが重要です。

【委員】 KPIの観光客数220万人は秦野だけでの数値ですか。

【企画課】 そうです。

【委員】 アプリの維持費はどの程度かかるのですか。

【部会長】 私自身もこの事業に関わりがあるのですが、仕様ではデータは提供されるもののアクセス数確保の補償はなく、トラブルが発生した場合は補修をするという内容です。アプリの更新については、各市が自由に行えます

が、今後そのための維持費が掛かります。

【委員】 アプリの中に多言語コンテンツなどがあるようですが、政府が主導する外国人観光客の受け入れプロジェクトの一環として、交付金がもらえたのですか。

【企画課】 これは、地方創生の入り口の部分でできた交付金ですから、その趣旨とは異なります。

【部会長】 では、特に御意見がなければ、有効であったということで整理いたします。

次に、地方創生推進交付金・対象事業【1】の説明をお願いします。

【企画課】 一地方創生推進交付金・対象事業【1】の説明—

【部会長】 何か御意見等はありますか。

【委員】 交付金の額は、3年間の合計ですか。

【企画課】 そこに記載があるのは、平成28年度単年の額です。

【委員】 3年間の合計ではいくらですか。

【企画課】 総事業費としては、約6千万円程度です。

【委員】 次年度の事業の中身はどのようなものですか。

【企画課】 平成30年度は2年目の検証を踏まえて、実証販売やルートPRなどのキャンペーンを展開するなどの経費になります。

【委員】 3年事業のうちの1年が終わり、何の支障もなく事業が進んでいるわけですから、自己評価をCとするのは厳しいと思います。

【企画課】 担当課としては、まだ具体的な指標が出ていないので、C評価にしたことです。

【委員】 この交付金については、最終年度でないと指標がでないので、評価というよりも、事業の経過が順調に進んでいるか否かの視点で見たらどうでしょうか。

【企画課】 先ほども説明しましたが、この推進交付金の評価は義務付けられていないので、参考程度に経過をお知らせする方向にしたいと思います。

【委員】 義務がないのであれば、企画課の内部管理として、参考程度に示す程度でよいと思います。

【部会長】 それでは、この地方創生推進交付金の2事業は、外部評価は行わず、来年度以降の参考とします。

次に、地方創生推進交付金・対象事業【2】の説明をお願いします。

【企画課】 一地方創生推進交付金・対象事業【2】の説明—

【部会長】 こちらも参考の情報提供ですが、何か御意見等はありますか。

【委員】 下り便の本数が多いのは、伊勢原のお客さんを秦野市の鶴巻温泉に引き込むという狙いですか。

【企画課】 そのとおりです。

【委員】 グッドアイデアですね。登山客の中には、バスがあって温泉に行ければ行きたい方もいると思います。

【企画課】 小田急線に乗車して下り方面に戻り、鶴巻温泉にお越しの方が結構いらっしゃるそうです。

【部会長】 期待のできる事業ですね。

【委員】 大倉のお客様に対して、同様なバスの話はなかったのですか。

【企画課】 話題に挙がったそうですが、バス事業者側の対応が難しかったそうです。ただ、ヤビツ峠のルートについては、富士見の湯を経由する対応を探るようです。

【委員】 受け入れ態勢の問題もあると思います。山を降りて温泉まで来る時間は夕方ですから、旅館も忙しい時間帯となります。利用できるのが市の施設の日帰り温泉施設だけとなると、その施設だけで足りるのかという課題もありますね。

【委員】 富士見の湯は、サイクリストが回ってくれることも期待しているのですか。

【企画課】 そうです。良い施設なので、是非利用してもらいたいと思っています。

【部会長】 それでは、予定していた内容はすべて終わりましたので、この辺りで議論を終えたいと思います。次回の会議までに本日出た意見を基に整理してもらいますが、改めて、コメントなどは必要ですか。

【企画課】 本日以外の部分で別途コメントがあれば、8月4日（金）の正午までにお願いします。

【部会長】 他に何か御意見がなければ、事務局から事務連絡をお願いします。

【事務局】 一他の2部会の今後の予定及び次回会議日程等の確認—

第3回会議 平成29年8月9日（水）午前10時から開催予定

【部会長】 何か質問等はございませんか。

無いようでしたら、以上をもちまして、本日の会議を閉会といたします。

— 閉 会 —